第 34 回(令和8年度第 2 回) 南あわじ市子ども・子育て会議【要点記録】

日時:令和8年 10 月5日(月)13:30～15:50
場所:南あわじ市役所　第2別館　第5会議室
参加者:南あわじ市子ども・子育て会議 委員 13 名(2名欠席)
事務局:教育委員会こども未来課長、同 主幹、係長 2名
オブザーバー:健康課長、生涯学習課長、(株)サーベイリサーチセンター

会議の概要
1. 開 会
2. 議 題 会長が挨拶、議事進行
　(1)こども計画策定に係るアンケート調査について
　(2)南あわじ市公立教育・保育施設のあり方検討方針(素案)について
　(3)その他
3. 閉 会 副会長が閉会

1. 開 会　こども未来課長が開会
・事務局より、委員の出欠等について説明。委員 15 名中 13 名(過半数)の出席。南あわじ市子ども・子育て会議条例第5条第2項の規定を満たしており、会議成立の旨報告。
・アンケート調査は、今後策定するこども計画の基礎資料になり、何を把握して、それを今後どのような施策につなげていくのかという観点からご意見をいただきたいと考えている。
　また、教育・保育施設のあり方については少子化が進む中にあって、子どもたちにとって望ましい教育環境の視点と、どう確保していくかという点から併せて検討していきたい。

2. 会長挨拶
　雨が多いので、子どもたちが外で十分に遊ぶことができているのか心配。こども計画の策定のため、多くのご意見をいただけたら。
3. 議題
(1)こども計画策定に係るアンケート調査について
[事務局]これからお伝えする確認事項は、この会議開催までに、関連している、母子保健や子ども家庭センターなどを所管する健康課、放課後児童クラブなどの事業を所管する生涯学習課、小中学校関連で学校教育課、貧困対策等関連で福祉課の職員と事前に協議する場を設け、独自項目について協議し、質問・意見を取りまとめており、それも併せてお伝えしながらご意見をいただきたいところ。
【小学生用】
[事務局] 問2 「お住まいの小学校区はどちらですか」という問いについて、後の項目に、例えば、問3 「学校は楽しいですか」といった、学校に関する項目もあり、特に中学では校区外や区域外修学がある中で、住んでいる場所はどこですかという校区を聞くよりも、通っている学校を選択するようにし、16 の選択肢に「それ以外

の学校」を設け、通っている学校を聞くのは如何か、という意見があった。それにより、集計後、学校の傾向がつかめるのではないか、という意見があった。

居住地で集計するか、通っている学校で集計するかという点で、地域柄の特性で分析するか、学校の特性で分析するかということになるが、集計分析が変わってくるのは如何か。

［事業者］

生活実態調査となり、通う学校の状況も聞く部分もあり、あるいは地域での生活状況を把握する部分と属性としては２つに分かれている。通う学校と、住所分類と両方把握できれば。回収を学校別でできれば可能。今後要調整。

［委員］小学生は特に通う学校と校区の理解は難しいのでは。近年は校区と異なる学校に通う児童も多い。校区外へ通う児童の数や情報は少ないかと思うので把握することができれば。

［事業者］保護者アンケートは校区か郵便番号で地域を把握るため、小中学生用で通う学校を答え、それに紐づけていくことも可能かと。

［委員］学校に通えていない児童へはどう対応するか。

→タブレットは持っているので、つながっており、対応可能。

［事業者］ 問５－１　問５で「悩みがある」と答えた方に聞く問い。「６．異性のこと」という選択肢があり、項目として、異性のことを挙げていることについて、心の性と身体の性が必ずしも同一ではないことが取り上げられることが少なからずあるところ、あえてこのように表現する必要があるのかという意見があった。ここでは、好きな子のことのような意味で挙がっているのではないかと思われるが、わかりやすい言葉に変更することで良いか。→了承

選択肢の 12 番、「体や健康、性のこと」があり、この悩みがある場合はこちらを選ぶことができる。同様に、若者アンケートには性のことの選択肢がないが、「病気のこと」という選択肢があり、その選択肢を小中学生と同じ項目「体や健康、性のこと」へ、併せて修正する。→了承

［事務局］ 問７について、「次に挙げる相談支援機関の中で知っているものはありますか」という質問。南あわじ市民の公的施設の選択肢として整理し、認知度を測る項目でもある。

［委員］認知度を測ることと、相談する選択肢があるということを伝える意味、インターネットで調べることも考慮して、正式名称で掲載することが望ましい。

［事務局］ １番は「南あわじ市こども家庭センター（市役所内）」、２番は「青少年なんでも相談（市役所内）」、３番は「兵庫県こども家庭センター（児童相談所）」、４番が「ひょうごっ子悩み相談」、５番「子どもの人権１１０番」、６番「児童虐待防止 24 時間ホットライン」、７番「親子のための相談ＬＩＮＥ」、８番「知っているものはない」で確認。ふりがなは「じどうそうだんじょ」。→了承

［事務局］ 問 10「自分らしさ」について問う設問であるが、「自分らしさ」という言葉が理解できるか。ご意見・ご提案があれば。

［委員］ 10 代、20 代の自殺率が高い状況で、共通して言える事項として自己肯定感が低いことがあり、そこの取り組みが求められるところであるが、ここでは、自己肯定感と自分らしさは異なるということ。

［委員］ 自分らしさを認めてもらうというのも一つの方法なのかなとは思うが。その第一歩として、自分で理解しているか、学校や周りの人に理解してもらえているかという設問から始まっているのかと。問 10-2「「自分らしさ」を出だせたり、知ってもらえたと感かんじるのはどんなとき」という問いは難しい項目。自己肯定感にまつわる質問である。

［事業者］ 国の調査では、委員が言うように自己肯定感、自尊心、プライドのところを聞いている。問 10-2 は自

尊心の部分に関するところだが、どう児童へ伝えるかが課題。
［委員］ 人に認められて自分を知って認められる、その気付きがあるというのが教育的と考える。
［委員］ 「自分らしさを持っていますか」と問われても、持っている・持ってない、「自己肯定感はありますか」と問われても、ある・ない、と考えるだけで広がりにくい問い。認めてもらった経験、感情を問う選択肢を増やす設問が如何か。自己を肯定する感情、例えば、感謝された場面のことであったり、自信が持てたりしたこと、他人よりこれが得意だ、とか。全くないも入れて。選択肢が多い方がイメージできて回答しやすい。それが自己肯定感につながっているのでは。
［事務局］ 問 10、問 10-1 を無くして項目の再調整を行う。
［事務局］ 問 12 は回答を「あてはまるもの全部」から「3つ」に絞る。南あわじ市では今年度から子ども屋内遊び場施設基本計画を推進。子ども、若者の全員が学校、家庭に次ぐ安心、安全な第三の居場所を見つけることができる社会の実現を目指すというところ。子どもたちの日ごろの生活の中の居場所に加えて、さまざまな行き方の中で選択肢となる居場所の確保について、多様なあり方が検討されているところで、焦点をしぼって分析していきたい。そして、枝項目を追加して、その場所で過ごすのが好きか、居心地がいいと思うか、快適か、というような設問を追加し、多く過ごす場所について満足しているかどうかを問いたい。
［委員］ 選択肢の「祖父母の家」は「祖父母・親戚の家」に。
［委員］ 「ゲームセンター」は地域によって有無が分かれるが、地域特性が出るのでそのままで。
［委員］ 「10. 地域の場所」はその他か。スーパー・個人商店の区別は。
［事務局］「7. スーパー・ショッピングモール・コンビニ」を「お店、スーパー、コンビニ」、「10. 地域の場所」は削除、「12. その他（　　）」にして記載してもらう。
「11. アフタースクール（学童保育）」に修正。
［委員］ 地域住民がいて子どもの居場所となる小さいお店（昔で言う駄菓子屋）が増えればいいという話は出る。地域の安心できる場所や憩いの場所のイメージ。そこは区別してほしい。子ども食堂も同様。
［事務局］ 良い言葉を探して項目とする。
［委員］ この設問により子どもの居場所に反映されるのか。
［事務局］ 充足しているかどうかという点、どういう傾向で放課後の時間を過ごしているか、そこで満足しているのか、居場所として不足していると思っているのか、というような分析をして、お伝えすることはできる。
［委員］ 問 13 については、今後の意向を聞いているので、「今後」「これから」の言葉は必要。回答数を絞ること。
［委員］ 問 13 について、保育所や福祉施設など自分が役に立てると思うところを追加。ボランティアができるような場所がほしいという考えの子がいるか知りたい。
［委員］ 問 15 については「マンガ雑誌をのぞく」とあるが、文科省は、心が動いて読書と同じ効果がある言っており、マンガ雑誌は含んでいいのでは。→当該部分削除
［事務局］ 問 16 選択肢（わからないことはない）等追記修正。問 20、22 誤記修正。問 22-1「インターネット」文言修正。
［委員］ 問 25 選択肢修正。「地域の活動」はわかりにくいのでは。近所の人たちがやっている活動、「地域の行事や活動」としては。」
［事務局］ 問 32 について、「あなたがこれから住みたいまちは、どんな環境や暮らしができるところですか」という質問は、わかりやすく「あなたがこれから住みたいまちはどんなところですか」「どんなことができたらいいか」というような表現に。

［委員］「あなたがこれから住みたいまちは、どのようなくらし（←平がな表記）ができるところですか」がいい。
［事業者］ 若者調査の最後、「問27　南あわじ市の若者にとってもっと住みよいまちになるために、何が必要だと思いますか。自由な意見を聞かせてください」という質問があり、小中学生向けにも市名を入れると若者調査との比較ができるかと。南あわじ市に今度住むとしたら、どういうまちになればよいかという聞き方がいいのではないか。小中学生向けの質問に「住みよいまち」という言葉を入れてもいい。
［事務局］ 皆さんのご意見から、南あわじ市がどんなまちになるのかということを若者にも聞いているし、子どもにも聞く。そこで比較対象しながら、若者や子どもの視点で南あわじ市をどうしていきたいか、と設問を設定することとする。
［事務局］ 前回会議で保護者アンケートと若者対象者と重複するのでは、という意見があった。無作為抽出において、既婚、独身の区別が困難で、同世帯の子どもの有無についても、最近は住民登録においても複雑化しており判別が困難である。極力重複しないように進めたい。
　中学生、保護者アンケートについては、これまでの議論に沿って同様に修正。若者アンケートについては、前回会議で対象年齢を15歳から39歳としている点に関して、事業者より詳細説明を。
［事業者］ 子ども・若者対策推進法の年齢対象が概ね39歳までの若者を含む。今回のこども計画については、０歳児から39歳までの子ども・若者が対象。小中学生は生活実態調査で対象としており、子ども・若者については15歳以上というかたちに限定しているもの。
［事務局］ また、前回会議で39歳までを対象にすることが、独身者の割合が回答に影響してくるのではないかという意見があった。社会背景に地域コミュニティの希薄化や不登校や孤立など困難を抱える子ども・若者の増加があり、一人親家庭の増加などによる生活環境の変化などもあって、そこの分析をして、施策展開を進めていく必要があるというところ。若者対象のアンケートにおいては、子ども世帯のアンケートとは観点の異なるところから分析しつつ、子どもから若者世代の切れ目ない施策展開を実現するために実施するもの。
【若者用】
［事務局］ 問12－１　これまでの協議沿って、選択肢10番「病気のこと」を「10．体や健康、性のこと」に修正、問15－４小中学生用の「南あわじ市に住みたいと思いますか」に合わせるような表現へ修正。問16－３　「６．受験に失敗したこと（高校・大学等）」を「失敗」という言葉を使わないで、「受験（高校・大学等）」といった表現に修正。問16－３、問16－４の設問の関係性については再調整し、次回提案。「10．病気（病名：　　）」は病名を記載しない。問25は市の現状に沿って調整。
　以上、再調整したものを委員へ配布して確認いただくこととする。

（2）南あわじ市公立教育・保育施設のあり方検討方針（素案）について

［事務局］ 資料、概要版にて説明。
　今後のスケジュールとしては、令和９年度の市内教育・保育施設入所申し込みが10月１日から20日までとなり、本日、方針の素案の内容についてご説明させていただき、審議していただくもの。続いて次回会議で修正したものをご説明し、審議いただき、今年度末までに正式な方針として策定したいと考えている。
［会長］ 公立教育・保育施設、公立の幼稚園と保育所と認定こども園のあり方検討方針ということで、素案は基

本的な考え方をご説明いただいたが、可能性として 19 名に満たないであろう保育所、幼稚園が出現してきそうな状況なのか。
［事務局］ 現状として、19 人以下のところが３施設ある。またさらに５人以下になる可能性がある。
［会長］ 具体的に 19 名以下になるという可能性があるところ、今後、質の高い保育ができるように持続可能な教育、保育体制を維持していくためにどのように検討していくか。今年度中には基本方針を定めたいというところ。
［事務局］ その状況にある施設では、保護者との面談もし、さらに地域に情報は入っているという状況。今回の方針については、個別の施設について記載するというところまでは方針では求めていないので、南あわじ市施設全体として、公立施設のあり方・方針を策定し、また、今後、改正なりできたらと考えている。

（3）その他
［事務局］ アンケートの修正については修正版をメール等で送信、ご確認いただき、それでよろしければアンケート実施に進みたいが如何。 →了承

（4）次回（第 35 回）の開催時期について
［事務局］ 次期開催は次第にある 11 月は無しとし、翌年2月3月に開催することで日程調整する。

［会長］本日の議題は以上となる。

3. 閉 会
［事務局］貴重なご意見を頂き感謝申し上げる。それでは、閉会の挨拶を副会長にお願いする。

［副会長］南あわじ市の少子化対策にむけ、子どもたちがこれからも健康で元気に育っていける環境づくりにつながるように私も願っている。アンケート結果に南あわじ市への想いについてどんな意見が出てくるのか期待する。ありがとうございました。

以上